

「中国のローソンが 4,000 店舗」

洲澤 輝

中国の日系コンビニエンスストアといえばファミリーマート（中国語：全家）を思い浮かべる人が多いと思います。しかし、最近、ローソン（中国語：羅森）がファミリーマートを追い抜き、日系コンビニエンスストアの中では中国で最多の店舗数となりました。今月号のハッピーメールではローソンの最新動向について取り上げます。

今年9月、遼寧省にローソンの新店舗がオープンし、中国国内での店舗数が 4,000 店舗に達しました。ここまで急激に人気になった理由に、様々な独自の工夫が関係している様です。例えば、「日本のローソンでヒットしている食品の紹介」や「日本のアニメグッズの販売」、「ハローキティなどのキャラクターとのコラボ」などがあります。ローソンは現在、中国市場の開拓を進めており、2025 年までに中国国内に 1 万店の出店を目指しています。



【ハローキティとのコラボ。南京東路地下鉄駅店】

＜中国でのローソンの歴史＞

ローソンは、1996 年に中国初の日系コンビニエンスストアとして上海市に進出し、日本のコンビニで人気のある「おでん」や「おにぎり」を中国に初めて持ち込みました。2017 年には店舗数が 1,000 店を超え、2020 年には、中国事業の営業損益黒字化を達成しました。

＜店舗入場料が廃止＞

今年 8 月、ローソン中国の張副総裁がウィーチャット（微信）のモーメンツに投稿した内容が話題になりました。それは、「ローソン中国は店舗入場料や口座開設費を廃止する」という内容です。記事によると、「江蘇省や浙

江省、上海において、ローソンは仕入先から店舗入場料や口座開設費などの関連費用を徴収しない」と述べています。このニュースは中国国内の卸業者や代理店などの業界では大きな話題となっています。一般的に代理店や卸会社が中国の小売店舗に商品を卸す場合、小売店側に「店舗入場料（棚の使用料）」や「口座開設費」、「宣伝費」など、多岐にわたる関連費用を支払います。これらの費用が多額になる場合もあるため、代理店がいくら良い商品を持っていても小売店へ提案出来ない状況が発生します。そこでローソンは、より多くの代理店や卸会社と連携して新商品や関連情報を集めるために、店舗入場料を撤廃することを決めました。

＜中国国内のコンビニ店舗数ランキング＞

中国連鎖経営協会（CCFA）は、今年 4 月 27 日、「2021 年中国コンビニエンスストアトップ 100 ランキング」を公表しました。

順位	コンビニ名	ブランド	店舗数
1	易捷	中国系	27,600
2	美宜佳	中国系	22,394
3	昆仑好客	中国系	20,212
4	天福	中国系	5,808
5	羅森（ローソン）	日系	3,256
6	全家（ファミリーマート）	日系	2,967
7	7-ELEVEN（セブンイレブン）	日系	2,387

※2020 年 12 月 31 日時点のデータ
参照：CCFA 2021 年中国便利店 TOP100
榜单公示

この時点では日系コンビニエンスストアの 3 社（ローソン、ファミリーマート、セブンイレブン）は、中国国内でトップ 7 に入っています。また、ローソンは 2020 年 12 月から 2021 年 9 月までの 9 カ月で計 744 店舗増加しました。最近の上海ではローソンの店舗をよく見かけるようになりましたが、今後どのような動きを見せるのか、引き続き注目が必要です。